

個別支援級 生活単元学習の実践

1 単元名 「野菜を育てよう」～野菜を使って料理しようⅡ～（全34時間 本時 27/34）

2 単元目標

- 収穫したジャガイモを調理して食べる活動を通して、作ることの楽しさを感じることができる。
- 友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。
- お店を開くという目標に向かって話し合いや準備の活動を通して、みんなで創り上げていく楽しさを味わう。
- 買い物に行く活動を通して、買い物に行くために必要なことや買い物の仕方を考え、友だちと協力して買い物をすることができる。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手立て・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業作り

ブロックテーマ「感じる心、気持ちを伝える自分」

（1）話す・聞く

4月から様々な場面でそれぞれの考えを聞きながら、話し合いを進めるうちに、一生懸命に話す子のお話を最後まで聞こうとする姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになってきた。自分のこだわりだけで話を進めるのではなく、みんなの意見をまとめるにはどうしたらいいかを考えられるようになってきたのだと思う。

（2）関わり合い・ひびきあい

今年度も、朝の会・生活単元・体育科・音楽科・外国語などで一緒に活動や学習をすることを多くしてきた。それぞれの実態は違い支援の仕方も違う点もあるが、共に活動する中で、豊かなかわりができ、思いが少しでもひびき合うのではないかと考えたからである。また、その中で互いの良さを認め合うことができるのではないかと考えている。

本単元では、「カレーや肉じゃが、みそ汁を作りたい」という思いをみんなが持ち、その思いを大切にしながら話し合っている。低学年の子は、自分なりの表現方法で思いを伝えようとし、聴いている児童も何を言おうとしているのか受け止めながら、聴いている。高学年の子は、今までの生活経験をもとに低学年の子に分かるように伝えようとしている姿が見られるようになってきている。

4 単元と指導について

（1）単元について

今年度は、畑でジャガイモを育てたいという気持ちをもって野菜作りに取り組んできた。ジャガイモは、初挑戦でどこにジャガイモができるか分からない子もいた。種芋を見ながら、「ジャガイモはどうやってできるのか」と投げかけると、様々な予想が出てきた。子どもたちは、日々大きくなっていくジャガイモの育ちを見守りながら生活してきた。そして、いよいよジャガイモの収穫。地面の下から出てくるジャガイモに歓喜の声を上げながら収穫した。収穫したジャガイモを見て「ポテトチップスを作りたい」「カレーを作りたい」「お味噌汁を作りたい」という

それぞれの思いが出てきた。ポテトチップスやフライドポテト・ゆでじゃがはジャガイモと油だけでできたが、カレーや肉じゃが、みそ汁はジャガイモ以外の材料がないとできない。その事実を子どもたちに話しても「カレーや肉じゃが、お味噌汁を作りたい」という思いは変わらない。子どもたちの何とかして作りたいという強い思い（切実な思い）からこの単元がスタートした。その強い思い（切実な思い）を実現させるために、お店を開いて、人との関わりを学び、実際に買い物を経験することで自分の生活経験を増やしていくような単元にしたい。

（2）指導について

＜単元における指導観・願い＞

生活単元学習では、生活に根ざした学習を取り入れてきている。今回の単元で行う「料理」「買い物」は、まさにこれからの社会生活の中で必要不可欠な物である。料理では、作り方・準備・手順・片付けなどを学ぶことができる。買い物では、お金の種類・計算・予算・選択などを学ぶことができる。それぞれの児童の実態や生活経験は違

うが、共に学ぶことにより、助け合い、補い合うことができると思う。また、自分の知らないことを知る経験にもつながると思う。この単元を通して、一人ひとりの子どもたちが「切実な思い」を持ち、実現させるにはどうしたらいいかを考え、協力することの大切さに気づいてほしいと願っている。そして、自分たちの思いが実現できた満足感を味わうことにより、次の活動や様々な学習への意欲へつなげていきたい。また、新しい経験を重ねることにより、生活する楽しさを味わい、それぞれの生活経験が広がるようにしていきたい。

<切実な問題について>

子どもたちは、今まで生活単元学習の中で様々な野菜を育て、料理をして食してきた。自分たちで育てた野菜がおいしくなることに感激し、喜びを味わってきた。今回は、「ジャガイモを料理して食べること」だけで終わらせるのではなく、子どもたちの思いを揺さぶりながら進めていきたい。その揺さぶりにも負けない「思い」は、自分一人では解決できないけれど、どんなこともみんなの力や考えで解決したいという「切実な思い」となるだろう。

そして、話し合いや活動の中で子どもたちが「切実な思い」に向かって考えたり、思いを伝えたり、協力したりして実現できる喜びを感じさせていきたい。

<ひびき合いについて>

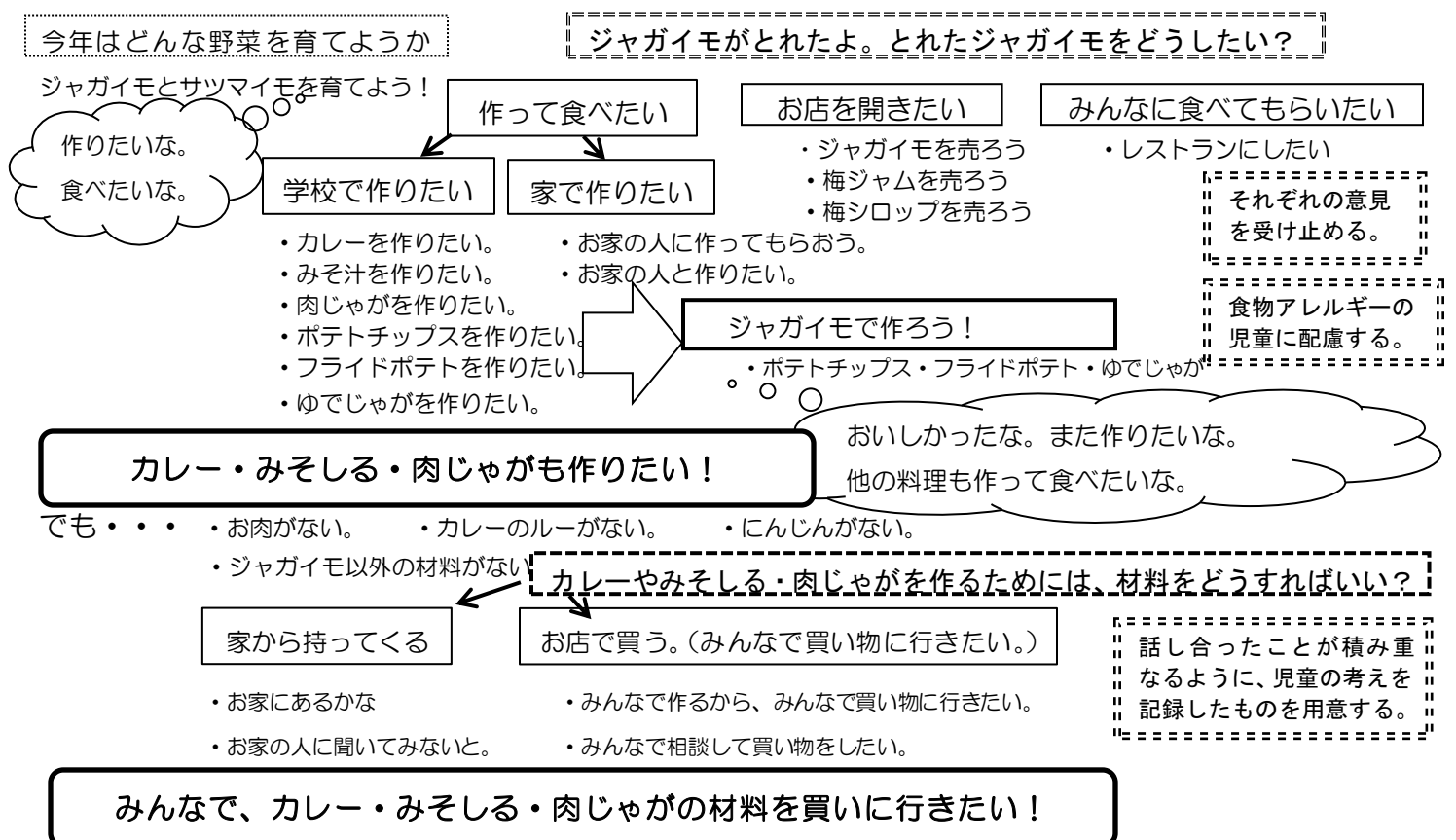
話し合いの中では、話し合い全体を見て自分なりに考えたり、友だちの考えを理解してより良い方法を考えたりできるようにしたい。話し合いの内容の理解や、イメージをもったり膨らませたりすることが得意ではない子どもたちであるので、初めての活動では、実際に動いたり、視覚的な支援をしたりすることで、イメージを持ちやすくしながら学習を進めるようにしたい。

活動の中では、友だちの動きや言葉を見て、良いところを見つけ、真似ることも大切にしたい。初めてのことに不安がある子もいるので、友だちのやり方やがんばる姿を見て、自分からやってみようとする気持ちをもつこともひびきあう姿としたい。さらに、友だち同士で声をかけたり、助け合ったりする姿につながってほしいと思う。

5 単元構想

単元のねらい

- 収穫したジャガイモを調理して食べる活動を通して、作ることの楽しさを感じることができる。
- 友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。
- お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで創り上げていく楽しさを味わう。
- 買い物に行く活動を通して買い物に行くために必要なことや買い物の仕方を考え、友だちと協力して買い物をするすることができる。



でも・・・・材料を買うお金がない。

材料を買うお金をどうしたらいいかな？

お家の人からお金をもらおう。

お金を借りて返す。

自分のお小遣いを出す。

梅ジャムを売って、お金をもらおう。

- ・おつりは、返そう。
- ・どうやって返したらいいのかな？
- ・お金をもっていない子もいる。
- ・先生たちが、買ってくれるかな？
- ・お家の人にお断いしなくちゃ。
- ・お家の人も買ってくれるかな？

みんなで、カレー・みそしる・肉じゃがの材料を買うために梅ジャムを売ろう！

お店を開くためには、何をしたらいいかな？

日時や場所・名前を決めよう。

チラシや手紙・ポスターを書こう。

看板や品物の準備をしよう。

当日の役割分担を決めよう。

「うめやさん」を開こう

カレー・みそしる・肉じゃがを作るために買い物に行こう！

たくさんの人が来てくれたね。

たくさん売れたね。買い物に行ける

買い物に行くためにはどうしたらいいかな？

グループごとに作り方を調べて、買う物や

どのくらいの量を買うか決めよう。

どこのお店で買うか相談しよう。

どうやって買物をしたらいいか考えよう。

- ・何を買ったらいいのかな。
- ・どのくらい買ったらいいのかな。
- ・お家の人に聞けば、分かるかな。
- ・本で調べれば分かるかな。

- ・近くにお店はあるかな。
- ・どこに行けば売ってるかな。
- ・お家の人はどこで買ってるのかな。
- ・どんなお店に行けばいいのかな。

- ・お店で何をしたらいいのかな。（本時）
- ・どこに置いてあるのかな。
- ・どれにしたらいいのかな。
- ・お金はどこで払うのかな。

カレー・みそしる・肉じゃがを作ろう！

- ・おいしかったね。
- ・今度は、〇〇を作りたいね。
- ・みんなにも食べてもらいたいね。

みんなで協力していろいろな活動ができたね。

楽しかったね。また、一緒に作りたいね。

6 本時について

(1) 目標 グループで相談して、買い物の仕方を知ることができる

(2) 展開

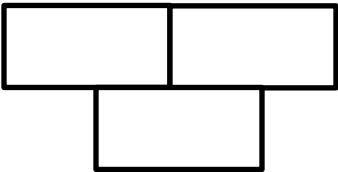
分	主な学習活動	主な支援・留意点
5 30	1 今日の学習内容を確認する。 買い物の順番を話し合おう 2 グループごとに買う物を確認し、どんな順番で買い物したらいいかを話し合う。 〇カレーA 〇カレーB 〇肉じゃが 〇みそしる 3 実際にやってみよう。 ・最初に何をしたらいいのかな。 ・このコーナーにあるかな。 ・先に〇〇を買ったらいいんじゃない。 ・最後はお金を払わなくちゃね。 4 買い物の仕方で困ったことや、もっと準備をすることがあるか考え、出し合う。 ・どのくらい買ったらいいか分からなかった。 ・どこから買ったらいいかな。	〇前時まで決まったことを掲示し、全体で確認していく。 〇教師・支援員が各グループに入り、助言する。 〇実際に買物をしながら考えられるように具体物や写真などを用意して場を設定する。 〇初めての子にもわかるように、実際に動いたり、言葉を言ったりしながら確認する。

	- どこに何があるのか分からなかった。 - お金が出せなくて困った。	
5	買い物に行くために次にどんな学習をしたらいいかを確認する。	

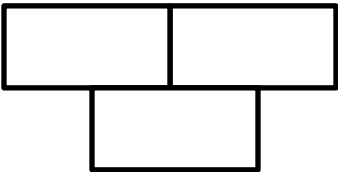
場の設定

黒板

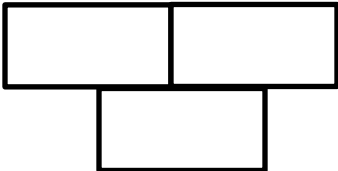
品物を入 るところ	レジ	パン コーナー	牛乳 コーナー	肉 コーナー	魚 コーナー	みそ・だし コーナー	野菜 コーナー
--------------	----	------------	------------	-----------	-----------	---------------	------------



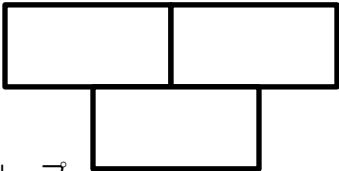
カレーグループA



みそしるグループ



カレーグループB



肉じゃがグループ



7 実践を終えて

(1) 単元全体を通しての単元作り

子どもたち一人ひとりが「ジャガイモ料理を作りたい!」という思いを持てるような投げかけをしてきた。まずは、畑で何を作りたいかを相談することで、みんなで「ジャガイモを育てたい」という思いを高めた。そして、ジャガイモがどこにできるかを予想して、育てていくことを通して、ジャガイモの成長や変化に目を向けさせるようにした。スーパーでよく目にするジャガイモだが、どこにできるかは分からない子もいたため、子どもたちはワクワクしながら成長の様子を報告してくれた。収穫すると、「ジャガイモで〇〇作りたい!」という気持ちが高まってきた。最初は、みんなでジャガイモだけで作ることができる料理を作った。自分たちで作った料理に大満足。更に「他にも〇〇作りたい」という思いが高まっていった。(子どもたちの切実な思い)しかし、カレーや肉じゃが、みそ汁を作るには、お金がない。そこで、どうしたらいいかを話し合い、みんなで作った梅ジャムや梅シロップを先生やお家の人に売って、お金をもらうことにした。昨年までの経験からお店を開く準備や練習をスムーズに行い、無事に「うめやさん」を開店させることができた。

次は、買い物と料理作りに向けての相談が始まった。ジャガイモ料理を作るために、材料や量・作り方を調べたり、買い物はどこのお店に行って、どうやって買い物をしたらいいかを相談したりした。みんなでジャガイモ料理を作るために一緒に考え、意見を出し合った。みんなの「ジャガイモ料理を作りたい」という思いの実現に向かって、様々な問題をみんなで考え、意見を出し合い、話し合っていくことで、本単元は作られてきた。

(2) 切実な問題について

「ジャガイモ料理を作りたい」という子どもたちの切実な思いが、単元を貫く切実な問題となった。その思いが、
 ①材料を買うお金をどうするか? ②どこのお店で買ったらいいか? ③どうやって買い物をしたらいいか? などの、様々な問題を一人ひとりがどうしたらいいかを真剣に考えることにつながった。

ただ、本時の「買い物の順番を考えよう」という問題は、子どもにとって切実な問題までになってなかったのではないか。子どもたち同士で買い物をすることが初めての子が多い中で、子どもたちの意識の中に「買い物の順番を考える」ところまでは、いってなかったのではないかと思う。買い物練習をする中で、より良い買い物の仕方に気づき、それを全体で確認していく。さらに練習を重ねながら、困ったことにぶつかった時には、どうすれば良いかをみんなで考えることが切実な問題となっていくのだと思う。

（３）ひびき合いによる子どもの変容

この単元では、みんなで相談することが多く、それぞれの生活経験や知識を生かしながら話し合い活動を進めてきた。生活経験に個人差はあるが、同じ問題を話し合うことで子どもたちの思考はぶれずに、その子なりの考えを一生懸命に伝えようとしていた。単元の中で、特に変容を感じた場面は、「どこのお店に買い物に行くか」を話し合った時である。様々なお店の名前が出てきたが、どうしてそのお店がいいかを聞くと「安そう」「たくさんありそう」「近い」といった子どもたちがそれぞれの経験を出し合っているだけにとどまった。そこで、本当に安いかわかるためには、チラシを比べるといいことを投げかけてみた。すると、「チラシって何？」と興味を持ったり、チラシを家から持ってきてみんなに見せたりしていた子がいた。さらに、実際に店舗に行って、価格やスペース、人の数、商品の種類や量を調べてきてみんなに発表した子もいた。その話の中には、「A店は、店の前に自転車がいっぱいあって小さい子にとっては危ない」といったみんなのことを考えた発言もあった。6年生が、実際に調べたことを他の子どもたちは真剣に聞き、自分のこだわりの店でなく、みんなが買い物をしやすいお店を考えることができた。まさに、子どもたち同士でひびき合って結論を導き出したといえるのではないかと思う。

本時では、グループで相談させて買い物の順番を決めた。そこでは、順番を考える必要感が少なかったためか、子ども同士のひびき合いは薄かったように思う。買い物の練習をした時には、子ども同士が相談したり、確認したりする場面は見られたが、切実な問題としてのひびき合いには、なってなかったと思う。けれども実際の買い物場面では、予定していた物が売り切れていたり、お金が足りなそうになってしまったりする問題に直面し、子どもたちが、必死に相談している姿が見られた。これこそが、ひびき合っている姿なのではないかと思う。

（４）成果と課題

今までの話し合い活動の積み重ねが、「話す力・聞く力」を育てることにつながっている。今までは、自分の考えを伝えるだけで終わっていた子が、「〇〇さんと同じで」というような言い方をするようになってきた。それは、相手の意見を理解し、聞いたことを元に自分の考えを伝えようとしているのだと思う。互いに認め合い、ひびき合い、意見をつないでいこうとしている姿が見られるようになってきたことは、子どもたちの大きな成長だと思う。

また、活動の積み重ねが見通しを持った活動につながっていると感じた。昨年の経験が、今年度にも生かされていて、さらに活動を広げている。そして、その活動での達成感が次の活動への切実な思いにつながっている。長い単元を通して、子どもたちが思いを持続することができたのは、まさに活動の達成感の積み重ねの成果だと思う。

今後、課題としていきたいことは、児童の実態や生活経験の違いがあることを把握した上で、一人ひとりの支援の仕方を工夫したり、他教科と関連させた授業形態を盛り込んだりすることによって、一人ひとりが見通しを持って活動に取り組むことができるようにしたい。また、それぞれがめあてを明確にして、取り組んでいきたい。

また、学習への参加の仕方が違うため、みんなの気持ちや活動の足並みがそろわないことが多かった。その子にとって何を大切にしたらいいのかを考えていきたい。